

モンゴル・日本人材開発センターのポートフォリオの現状と課題 ー自己評価・振り返りシートの取り組みを中心にー

ドウルブンチョロー, ムンフトヤ

要旨

本研究では、モンゴル・日本人材開発センターのポートフォリオの現状と課題を明らかにすることを目的とした。そのために、モンゴル人教師を対象にしたワークショップのデータから、教師が学習者の自己評価・振り返りシートの取り組みをどう捉え、どう関わるべきだと考えているかを探った。また、学習者に対するインタビューから、学習者が自己評価・振り返りシートの取り組みをどう捉えているかを探った。分析の結果、学習の取り組みに対する教師の関わりの方針のうち、「情動的支援」「学習者一人ひとりに合わせた対応」が、学習者が教師の関わりを評価する点として一致した。また、学習者が自己評価・振り返りシートを「教師とのコミュニケーション」や「自己表現のツール」として捉えていることが分かった。一方、自己評価・振り返りシートのコメントの書き方から、十分に振り返りが行えていない学習者がいると考えられることが課題として挙げられた。

[キーワード] ポートフォリオ、自己評価・振り返りシート、教師の関わり、情動的支援、学習者一人ひとりに合わせた対応

1. はじめに

1.1 問題意識

筆者の勤めるモンゴル・日本人材開発センター（以下、MOJC）は、社会人や高校生、大学生を含む一般を対象とした日本語教育を行っている。学習者には将来、日本語を使った就労や日本留学を目指す人が多くいるが、その他にも自分の趣味で日本語を学ぶ人もいる。

MOJC の日本語コースは、JF 日本語教育スタンダード(以下、JFS)に基づいており、日本語や日本文化の知識を一方向的に教えるのではなく、学習者自身の気づき、発見、主体的な学びを重視している。そして、その学びをサポートするためのツールとしてポートフォリオ(以下、PF)を取り入れている(国際交流基金 2017)。

PF とは、学習者が自分の学習を振り返るための資料を保管するツールである(国際交流基金 2017: 25)。国際交流基金(2017)によれば、学習者は、日本語の熟達度を自己評価し、自分の言語的・文化的体験を記録し、それらを収集し、PF に保管する。そして、それらを基に、自分の学習過程・学習成果を振り返ることができるとされている。

MOJC では PF に関する様々な取り組みや改善を行ってきた。八尾(2014: 162)は MOJC の

PFの取り組みの課題として、①(学習者の)PF利用方法への理解促進、②教師側の理解・連携不足を指摘し、それらの課題改善の取り組みを報告している。しかし、モンゴルでは、これまでPFは一般的ではなく、教師としてMOJCでのPFの取り組みに関わる筆者自身も、学習者としてはPFの経験がない。そのため、日頃学習者に説明するPFの意義や教師としてのPFへの関わり方に確信が持てないでいた。また、PFの取り組みについて、教師間で話し合う機会もあまりなかった。そこで、MOJCにおけるPFの取り組みをより効果的なものにするためには、教師間でPFについて話し合う機会を増やし、それを通して、教師自身のPFの理解を深める必要があると考えた。

1.2 MOJCにおけるPFの取り組み

MOJCの日本語コースは、総合日本語コース1から6¹まであり、その全コースでPFを取り入れている。MOJCのPFの構成は、「自己評価・振り返りシート(以下、振り返りシート)」「文化体験記録シート」「成果物」を入れる3つのパーツに分かれている。その中で振り返りシートは、日々の学習を振り返るための重要なツールとなっている。総合日本語コース1で使用している振り返りシートの日本語訳を添付資料1に示した。以下、添付資料1をもとにMOJCの振り返りシートについて説明する。

振り返りシートは、各授業の学習目標である①Can-do²が提示されており、学習者は毎回の授業の終わりの5分間で、②その記述をもとに「しました」「できました」「よくできました」の3段階で自己評価をする。③自己評価欄は2つあり、1度目は授業を受けた直後、2度目はコース中間のテストの際に自己評価ができるようにしている。また、④授業内容はどうだったか、何が難しかったかについて振り返り、気づいたことや考えたことなどを書くコメント欄も設けられている(以下、学習者が書くコメントを「学習者コメント」とする)。振り返りシートは、⑤教師が授業4回につき1回のペースで回収し、学習者の取り組み具合を確認し、コメントを書く(以下、教師が学習者の振り返りシートに書くコメントを「教師コメント」とする)。教師は教師コメントを通して、学習者のPFの取り組みを支援している。

2. 先行研究

2.1 ポートフォリオの目的

国際交流基金(2017: 25)は、PFの目的は保存している資料をもとに、自分の学習過程・学習成果を振り返ることであるとしている。さらに、PFはコースを通して活用することで、学習者が自分のニーズや興味に応じて目標を立てて、実行し、学習過程を振り返る機会となっており、その振り返りの機会を通して、自分で学び続けることができる学習者を育成することにつながると指摘している。また、横溝(2000: 109)は、PFの目的を「単に学習成果を蓄積するだけではなく、それらの深い内省によって、自分自身の「学び」をしっかりと把握し、自律的な学習ができる能力を学習者が身に付けていくことである」と述べている。

以上から見ると、PFの最終的な目的は、自律的に学ぶ力を育成することであると考えられる。そのために、振り返りという行為が重要な役割を果たしていると考えられる。

2.2 振り返りとは

今(2011: 1)は、学習の「振り返り」活動は「学んだこと・経験したことを思い返し、それに自分なりの意味づけをする」という行為であると指摘している。MOJCでは、振り返りシートを通して、図1のようなステップで振り返りを行っている。

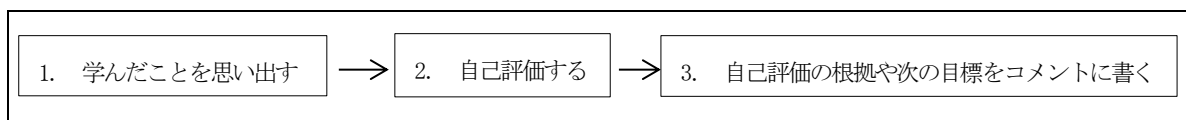


図1 MOJCの「振り返り」の3つのステップ

はじめに、学習者は授業のCan-do目標の記述を活用して「1. 学んだことを思い出す」。次に、その学んだことについて、「2. 自己評価する」。さらに、学んだことについて、「分かったこと」「面白かったこと」「難しかったこと」「もっと知りたいこと」など、「3. 自己評価の根拠や次の目標をコメントに書く」。ステップの2、3は、今(2011: 1)が指摘している「(学んだことに)自分なりの意味づけをする」に当たると考えられる。

また、山内(2017: 117)では、振り返りのプロセスがお互いに関連付けられ、常に繰り返され、習慣化することができれば、よりよい内省につながると述べている。内省とは、自分の考えや行動を深く顧みる思考である。MOJCの振り返りのステップで考えれば、各ステップを通して自分の学びや自己評価について、その根拠や改善方法を具体的に考えることで可能になると考える。さらに、山内(2017: 117)は、振り返りの習慣化によって、授業内外において無意識的に行っていた様々な活動や行為を意識的な学習へと変容させるきっかけとなると報告している。つまり、振り返りを行うことは、最終的に自分の学習のコントロールができるような自律的学習者の育成につながると考えられる。

2.3 PFの取り組みに対する教師の関わり

PFは、蓄積しているその資料に関して深く内省することが不可欠である(横溝 2000: 109)が、青木(2001: 194)は、「内省の能力は、誰もはじめから持っているわけではない」と指摘し、PFの取り組みにおける教師の役割として、内省の機会を作ったり、内省の手がかりとして学習者に質問したりすることで、内省の力を育てる手伝いをする必要があると述べている。さらに、横溝(2000: 110)は、「学習者の自己評価能力育成には、教師や他の学習者が果たす役割が大きい」と指摘し、学習者は教師や他の学習者などからアドバイスという形で支援を受けて、各学習者が自分の力を伸ばす」と述べている。また、石井・熊野(2010: 9)は、PFに関する実践報告で「個人の内省→他者との共有・ディスカッション→再内省」というサイクルを繰り返すことは、言語や文化の理解を深め、多様性や柔軟性といった視点を養う上

で重要なポイントで、これらの活動において教師は支援者として重要な役割を担っていると指摘している。

以上の先行研究から、PFを通して、学習者が内省する機会を作り、自律的に学ぶ力を育てたりするためには、教師をはじめとする他者との関わりが欠かせないと考えられる。

3. 研究目的及び課題

筆者は、MOJCにおけるPFの取り組みをより効果的なものにするためには、PFの取り組みに対する教師の関わりと、教師自身のPFの理解が重要だと考えている。しかし、筆者自身が学習者としてPFに取り組んだ経験がないため、これまでPFの取り組みに確信が持てないでいた。そこで、本研究では、MOJCのPFの現状と課題を明らかにすることで、MOJCにおけるPFの取り組みに対する理解を深めることを目的とする。なお、本研究では、PFに含まれる振り返りシートに注目する。その理由は、MOJCでは振り返りシートが、日々の学習を振り返るための重要なツールとなっていること、また、教師がこの振り返りシートを通して、学習者のPFの取り組みに関わっているからである。以下、2つの研究課題を設定する。

研究課題1：MOJCの教師は、学習者の振り返りシートの取り組みをどう捉え、どう関わべきだと考えているか。

研究課題2：MOJCの学習者は、振り返りシートの取り組みをどう捉えているか。

4. 研究方法

4.1 調査の概要

調査は、2019年4月1日から30日までの帰国実習を中心に行った。

まず、課題1「MOJCの教師は、学習者の振り返りシートの取り組みをどう捉え、どう関わべきだと考えているかを明らかにするため、MOJCのモンゴル人教師を対象に、日頃の振り返りシートの取り組みについて振り返るワークショップ（以下、WS）を実施した。WS形式にした理由は、教師同士の意見交換を通して、短時間で教師たちの考えや経験を共有できると考えたからである。また、教師同士で集まって話し合うことによって、教師間の連携を強めることができると考えた。

WSの参加者は、MOJCの全日本語教師13名のうち、モンゴル人教師8名であった。モンゴル人教師は全員で9名であるが、1名は事情により欠席であった。WSの参加者をモンゴル人教師のみに絞った理由は、PF導入の初期段階では主にモンゴル人教師が振り返りシートのコメントを書いており、振り返りシートの取り組みについてより身近に感じていると考えたからである。また、母語での話し合いにより、お互いの理解が深められると考えたからである。WSでは、話し合いのし易さを考慮し、参加者8名を①総合日本語コース1を担当している教師の「A」チーム（4名、T01～04）、②その他のコースを担当している教師の「B」チーム（4

名、T05～08)に分けた。ファシリテーターは筆者が担当した。以下の表1にWSの参加者に関する基本情報を示した。

表1 WSの参加者に関する情報

通し番号	T01	T02	T03	T04	T05	T06	T07	T08
属性	女性 非常勤	女性 常勤	女性 常勤	女性 常勤	女性 常勤	女性 常勤	男性 常勤	女性 非常勤
WS実施時期の 担当のコース	総合1A	総合1B 総合4	総合1A 総合2A	総合1A	総合5	総合2B 総合3B	総合3A 総合3B	総合2A 総合2B
担当した経験が あるコース	総合1～ 総合4	総合1～ 総合4	総合1、 総合2	総合1	総合1～ 総合6	総合1～ 総合3	総合1～ 総合3	総合1、 総合2

また、研究課題2「MOJCの学習者は、振り返りシートの取り組みをどう捉えているか」を明らかにするために、総合日本語コース1（2019年2月13日から5月22日）の学習者の中から、PFに対する態度が積極的な学習者（7名、S01～S07）を選択し、振り返りシートの取り組みに関する1人30分程度の半構造化インタビューを行った。このコースを対象とした理由は、コースのほとんどの学習者がはじめて振り返りシートに取り組むため、教師の関わりが学習者に強く影響すると考えたからである。また、PFに積極的な学習者をインタビューの対象とした理由は、このような学習者がPFの意義を感じているのではないかと考えたからである。インタビューの協力者は、授業中の姿勢や振り返りシートのコメントをもとに選択した。以下の表2にインタビューの対象者に関する基本情報を示す。インタビューの質問項目は添付資料2に添付した。

表2 学習者インタビューデータに関する情報

通し番号	S01	S02	S03	S04	S05	S06	S07
属性	女性 社会人	女性 社会人	男性 社会人	女性 社会人	男性 中学生	女性 大学生	女性 中学生
参加コース	総合1B	総合1A	総合1B	総合1A	総合1A	総合1B	総合1B
インタビュー時間	55分間	47分間	25分間	60分間	24分間	40分間	24分間

その他に、補助データとしてWSの参加教師の一部を対象にインタビューを実施した。また、総合日本語コース1の授業観察をし、学習者の振り返りシートを2月のコース開始にさかのぼって回収した。表3に、調査方法とそこで収集したデータをまとめて示す。太枠で囲んだ箇所が分析の中心としたデータである。

表3 調査方法と収集したデータ

	調査方法	対象者	データ	課題
1	WSの実施	モンゴル人教師8名 (T01~T08)	・グループでの話し合いの録音データ ・成果物(ポスター) ・事後アンケート ・WS全体のビデオ録画(140分)	課題1
2	学習者インタビュー	学習者インタビュー(7名) (S01~S07)	・インタビューの録音データ (1人24~60分、合計約250分)	課題2
3	教師インタビュー ① ②	モンゴル人教師4名(T01~ T04総合1A,Bクラス担当者)	・インタビューの録音データ (1人20~80分、合計約490分)	補助 データ
4	授業観察 ①最初と最後の振り返りシートを扱う箇所 ②中間振り返りセッション	①総合1Aクラス(T01、T04) 1Bクラス(T02、T03)	・授業観察(10分×10回) ・観察ノート	補助 データ
		②総合1Aクラス(T01、T04) 1Bクラス(T02、T03)	・セッションの録画(120分×2=240分) ・グループの話し合いの録音(中間振り返り、PFについて)、(約125分×12チーム=1500分)	補助 データ
5	振り返りシートの回収	総合1A(学習者20名) 総合1B(学習者26名)	・振り返りシート(第1課~18課) Aクラス171枚、Bクラス277枚	補助 データ

※表内の「T01~T08」は調査に協力してくれたMOJCの教師を示す

4.2 ワークショップの流れ

続いてWSの流れを説明する。WSは全体を120分間でデザインした。参加者に提示したWSの目標は、「MOJCのPFの取り組みに、教師はどのように取り組んでいるか、お互いの考えや経験を共有すること」である。以下の表4にWSの流れをまとめた。

表4 ワークショップの流れ

セッション	時間	目的	内容
セッション1	15分	振り返りシートの経験、考え、悩みを共有する	日頃のPFに関する実践を振り返り、その取り組みの成果や問題点、経験や考え、悩みについて自由に話し合う。
セッション2-1	30分	学習者の振り返りシートを分類する	各チームで、学習者コメントの複数のサンプルを見て、「良いコメント」、「良くないコメント」に分類する。
セッション2-2		教師コメントを書く根拠を考える	分類した学習者コメントのサンプルから「良いコメント」、「良くないコメント」の例を選び、それらのコメントに対して、チームで話し合い、効果的だと考える教師コメントを書く。また、どうしてそのような教師コメントを書いたか、その根拠について話し合う。
セッション3	75分	教師コメントの方針を知る	学習者の振り返りを促進することができるようなコメントを書くために、どうしているか、どうすればいいか話し合い、方針をまとめる。話し合った内容をポスターにまとめる。

セッション1では、参加者間のアイスブレイクの意味合いも兼ね、振り返りシートについての教師それぞれの経験、考え、悩みを共有し、自分たちのPFの取り組みの現状や、その中でどのような問題が起こっているかについて自由に話し合った。

セッション2では、振り返りシートの学習者コメントに対して教師コメントを書く際の基準を明確にすることを目的とし、2つのステップを設定した。セッション2-1では、ファシリテーターが予め準備した10の実際の学習者コメントのサンプルをチームで「良いコメント」「良くないコメント」「良いか良くないか判断できない」に分類した。10の学習者コメントのサンプルは、ファシリテーターが以前に収集した振り返りシートの中から、ファシリテーター

ター自身が同様に分類して選択をしたものである。この活動に関しても、各チームで話し合った内容は全体で共有した。

セッション2-2では、学習者コメントのサンプルの中から、両方のチームの「良い」または「良くない」の判断が一致した2つ（「良い」1つ、「良くない」1つ）の学習者コメントに対して、教師コメント及びその根拠を考えた。その際、チームで学習者コメントのサンプルを見ながら、どのような教師コメントを書けば、学習者の内省を促すことができるか、学習者が自分の学習について、自分で考えたいという気持ちになるかについて、チームで話し合ってから、教師コメントを考えた。

セッション3では、教師コメントを書く際の方針を作成することを目的とした。はじめに、セッション1から2までの流れを振り返って、学習者たちの内省を促進したり、学習者が自律的に学習について考えたりしていけるようにするために、どのような教師コメントを書けばいいかを再度考え、そこで出てきたアイデアを教師コメントの方針リストとしてポスターにまとめた。最後にポスター発表を行い、2つのチームがお互いの方針を共有した。（ポスターと教師コメントの詳細は添付資料3-1～3-4を参照）

WSの終了時に、WSに対する参加者の感想を聞くアンケートを実施した。アンケートの詳細は添付資料4に添付した。

5. 分析

ここでは、教師と学習者それぞれのデータの分析結果について述べる。

5.1 教師に関する分析

MOJCの教師は、学習者の振り返りシートの取り組みをどう捉え、どう関わるべきだと考えているかを明らかにするために、WSから得られたデータを中心に、以下の2つの観点から見ていく。

- (1) MOJCの振り返りシートの取り組みには、どのような問題点があるか
- (2) 教師はどのような方針で教師コメントを書いているか

最後に、また、WSに関する参加者からの評価についてアンケートをもとにまとめる。

5.1.1 教師から見た振り返りシートの取り組みの問題点

WSのセッション1では、振り返りシートの取り組みで、教師はどのような悩みや問題を感じているか話し合った。分析では、まず2つのチーム（「A」、「B」）の話し合いの録音を文字化後、話し合いの中から振り返りシートに関する悩みや問題についての発言をピックアップした。さらに、その内容の意味と共通点を考え、グループにまとめた。その結果、①（教師・学習者双方の）時間不足、②（教師・学習者双方の）コメントのバリエーション不足、③教師コメントを書くための情報不足、④（学習者の）振り返りが不十分、⑤（学習者の）PFに関する理解不足の5つにまとめられた。その結果を、以下の表5に示す。なお、以後、表中

の下線は本文で取り上げる箇所、表5から表9まで同様である。

表5 教師から見た振り返りシートの取り組みの問題点

問題点の種類	話し合いのデータ
① 時間不足	<ul style="list-style-type: none"> ・【教】教師コメントを書く時間が足りない。集中して書く時間が足りない/時間がない時に、一人ひとりに合ったコメントが書けない場合がある。(A) ・【学】学習者にもっと時間が必要である。多くて5分程度しか書く時間がない。(B) ・【学】学習者たちは漢字を使って書こうとして時間がかかってしまう。(B)
② コメントのバリエーション不足	<ul style="list-style-type: none"> ・【教】教師コメントの内容がいつも同じだと学習者たちは飽きてしまう。(A) ・【学】いつも「面白かった」などの同じコメントを書いている学習者が少ない。(A)
③ 教師コメントを書くための情報不足	<ul style="list-style-type: none"> ・【教】コースの初期に学習者について良く分からないので、教師コメントを書きにくい。(A) ・【教】学習者のコメントは量が少なく、教師コメントを書きにくい場合がある。(A)
③ 振り返りが不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・【学】自分について書いていない。(B) ・【学】学習目標 Can-do をそのままコピーしている学習者もいる。(B)
④ PFに関する理解不足	<ul style="list-style-type: none"> ・【学】総合3、4、5(初級後半以上のレベル)コースの外部からの学習者は何をどうするかよく分からない。(B) ・【学】学習者たちは振り返りシートの「どのぐらいできるか」という☆のところは成績に影響すると考えているので、正直に塗らない→授業の時はよく理解できていないのに、☆を全部塗ったりする場合がよくある。また、テストをしたら、点数が良くないという学習者もいる。(B)

※ (A) (B) チームからの発言であることを示す。また、【教】は教師、【学】は学習者の問題であることを示す。

①「時間不足」では、教師側、学習者側双方がPFにかける十分な時間がないことが問題として挙げられた。「教師コメントを書く時間が足りない」「時間がない時に、一人ひとりに合ったコメントが書けない場合がある」の発言に見られるように、教師は、学習者一人ひとりに合ったコメントを書きたいと考えているが、時間が足りないと感じていることがわかった。また、学習者に関しても、「学習者にもっと時間が必要である。多くて5分程度しか書く時間がない」のような発言があり、授業の終わりに学習した内容を思い出して自己評価したり、コメントを書くことは、本来時間がかかるものだが、実際には時間が5分程度しかとれず、時間が足りないという点が指摘されている。

②「コメントのバリエーション不足」では、教師は、「教師コメントの内容がいつも同じでは学習者が飽きてしまう」恐れがあると感じているが、実際には同じコメントを書くことがあるという点が問題として挙げられている。学習者コメントも、「いつも「面白かった」などの同じコメントを書いている学習者が少ない」など、同じことを書くことが問題とされている。授業内容が違えばコメントも変わってくるはずであり、同じコメントを書くことが、振り返りが十分にできていない証拠とみなされていると考えられる。

③「教師コメントを書くための情報不足」という点では、「学習者のコメントは量が少なく、教師コメントを書きにくい場合がある」という問題点が挙げられていた。例えば、「面白かった、楽しかった」だけでは、何が面白かったか、何が楽しかったか分かりにくく、教師はそれにどう対応するか分からないということである。また、「コースの初期には、新しい学習者のことについて良く分からないので、その学習者に合ったコメントを書きにくい」という点

も指摘されていた。

④学習者の「振り返りが不十分」という点も問題として指摘された。特に、「学習目標 Can-do をそのままコピーしている」ケースは、十分に振り返りができていないと判断されていた。

⑤学習者の「PFに関する理解不足」も問題として指摘された。学習者の中には総合日本語コース2より上のコースから入ってくる学習者がいるが、そうした「コースの外部からの学習者」は、日本語学習の最初からPFに取り組んでいる学習者に比べて、PFの理解が進まないケースがあることが問題として挙げられた。

また、MOJCでは振り返りシートの取り組みを成績の20%に加えている³が、学習者の中には、振り返りシートの自己評価そのものがコースの成績になると誤解している学習者がいることが問題として挙げられた。

②③④は、学習者コメントの書き方に関する問題点だった。WSのセッション2では、教師が考える学習者コメントの基準について話し合った。「良いコメント」の基準として、「自分が直面している問題点を取り上げている」「自己評価がコメントと一致している」「今後、何を学びたいかが明確である」「理解できないこと、理解できたということが具体的に書かれている」ことが挙げられた。一方、「良くないコメント」の基準としては、「学習内容について取り上げていない」「自己評価の理由について具体的に書いていない」「学習目標の Can-do の記述をコピーしている」「自分に関連づけていない」などが挙げられた。このように、教師は学習者がコメントを書いているにもかかわらず、それが自分について書かれていない、記述が具体的ではないなどの場合、十分に振り返っていないと判断していることが分かる。そして、振り返りが十分にできない原因の1つは時間が足りない(①)ことだとしている。

5.1.2 教師コメントの方針

ここでは、学習者の振り返りシートの取り組みに対して、教師がどのような考え方を持っていて関わっているかについて、WSの成果物であるポスターにまとめた教師コメントの方針リスト(添付資料3-3、3-4)を対象に分析していく。

教師コメントの方針リストとは、WSで学習者の学びや振り返りを促進するためにどのように教師コメントを書いたらいいかを話し合い、それをまとめたものである。分析では、教師コメントの方針リストの記述を、1つずつ意味を考えた上でグループ化し、そのグループの共通点をもとにカテゴリーを付けてまとめた。その結果、教師コメントの方針は、1「学習者に対する支援」に関する方針と、2「教師自身の取り組み方」に関する方針の大きく2つに分けられた。また、その2つはさらに、1「学習者に対する支援」の内容として、「情動的支援」「内省支援」「学習支援」に、2「教師自身の取り組み方」の内容として「学習者の尊重」「学習者一人ひとりに合わせた対応」「教師自身の振り返り」に分けられた。なお、教師自身の取り組み方について書いていると考えられるものの、上記のカテゴリーに分類できなかったものは「その他」とした(表6を参照)。

表6 ポスターの記述（教師コメントの方針）の分析結果

	カテゴリー	教師コメントの方針の記述（表内の記述は原文の通り）
1. 学習者に対する支援の方針	情動的支援	<ul style="list-style-type: none"> 褒める (A) 褒める (A) / 励ます (B) 「一人じゃない、いつも一緒だよ」と伝える (B) 学習者の意見はだめだと言わずに、励ます (A) いつも気軽に助けられると (学習者に) 伝える (B) 教師は自分の経験から共有する (B)
	内省支援	<ul style="list-style-type: none"> 直面している問題を挙げてもらえるように配慮する (A) 自分の言葉で、実際に具体的に、問題を取り上げる (B) 他の問題について触れる (A) 自分の学習を分析し、振り返りをするのを手伝う (B) コメントを書く習慣ができるようにする (B) 活動に対して、真摯に取り組む習慣を作るように配慮する (A)
	学習支援	<ul style="list-style-type: none"> モチベーションを生み出す (B) 継続して学習するように影響を与える (B) レベルに合った日本語で書く (B)
2. 教師自身の取り組みの方針	学習者の尊重	<ul style="list-style-type: none"> だめなことを優しく、正しく理解させる (A) 振り返りシートのコメントは心をこめて書く (A) 信頼性を生み出す (A)
	学習者一人ひとりに合わせた対応	<ul style="list-style-type: none"> 学習者一人ひとりの状況に合わせる (A) 学習者一人ひとりの状況に気を配る (B) 学習者のすべての状況に気を配る (B) 学習者の状況に対応する (B)
	教師自身の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 振り返る (A)
	その他	<ul style="list-style-type: none"> アドバイスをする (B) 正しい方向に導く (A)

※ (A) (B) チームからの発言であることを示す。

以下、各教師コメントの方針について、詳しく見ていく。

(1) 学習者に対する支援の方針

1つ目の「学習者に対する支援」の方針では、その内容がさらに3つの方針に分けられた。「情動的支援」「内省支援」「学習支援」である。例を示しながら、もう少し詳しく説明する。

「情動的支援」とは、学習者の気持ちに働きかける支援である。例えば、学習者を「褒める」「励ます」や教師のほうから「一人じゃない、いつも一緒だよと伝える」「いつも気軽に助けられると (学習者に) 伝える」という方針がある。

「内省支援」とは、学習者の振り返りを促すための方針である。例えば、学習者に「直面している問題を挙げてもらえるように配慮する」「自分の言葉で、実際に具体的に、問題を取り上げる」のように、学習者のコメントの書き方についてコメントすることで、内省を促進しようという方針である。これは、振り返りシートの取り組みの問題点に挙げられていた「学習目標 Can-do をそのままコピーしている学習者もいる」という課題の解決につながる働きかけだと考えられる。その他に、「コメントを書く習慣ができるようにする」のように、振り返りの習慣づけに関する支援も必要だと考えていることが分かった。継続的な支援をする必要があると考えていることが分かる。

「学習支援」とは、振り返りシートを通して、次の学習につなげるための方針である。「継

「続けて学習するように影響を与える」のように、振り返りシートの取り組みを学習の継続につながるようにするという方針も示された。また、教師がコメントを「レベルに合った日本語で書く」という方針がある。片桐（2014：18）が「文字を学んで自分で書いたものを PF に入れるようになり、それが PF に取り組む動機となること」と指摘しているように、学習者は日本語の文字や漢字が読める、書けるようになってきたら日本語を使用したいという気持ちになる。つまり、学習の意欲や PF の取り組みのモチベーションに繋がられるような方針が必要だと感じていることが分かる。

(2) 教師自身の取り組み方の方針

2 つ目の大きい方針である「教師自身の取り組み方」について説明する。この方針の内容は、さらに3つに分けられた。それは、「学習者の尊重」「学習者一人ひとりに合わせた対応」「教師自身の振り返り」である。

「学習者の尊重」では、「優しく」、「心をこめて」、「信頼性を生み出す」など、振り返りシートを書く際の教師の態度に関する方針をまとめた。「振り返りシートのコメントは心をこめて書く」などのように、このカテゴリーにまとめたコメントから、教師が、振り返りシートを書く際の自身の態度についても配慮していることが分かった。

「学習者一人ひとりに合わせた対応」は、振り返りシートの取り組みの問題点に挙げられていた教師の「コメントのバリエーション不足」という課題の解消に繋がると思われる。学習者全員に同じようなコメントを書くのではなく、学習者一人ひとりの状況に合わせて、教師コメントを書くことは、学習者の個性に合った対応やアドバイスができると考えられる。

「教師自身の振り返り」というカテゴリーの中に「振り返る」という方針があった。この方針に関して、WS の話し合いでは、「学習者に振り返らせるためには、教師自身も自分の授業について振り返ったり、学習者コメントを書くために、その学習者についての振り返りが必要だ」ということが論じられていた。振り返りシートにコメントを書くにあたって、学習者の内省を支援する教師自身も自分が担当した授業や学習者との関わり、学習者の授業の参加態度や学習の進歩などについての振り返りが必要だと考えていることは、非常に興味深い結果である。

5.1.3 ワークショップの評価

ここではWS終了後の参加者からのWSに対する評価についてまとめる。アンケートの結果、今回のWSは評価がかなり高く、全参加者8名中5名が「WSは分かりやすかったですか」という質問に対して、「とても分かりやすかった」、3名が「分かりやすかった」と評価した(図2)。この結果から、振り返りシートに関する課題や考えを共有するという教師間の協働の一つが、MOJCの教師に受け入れられたことが分かる。

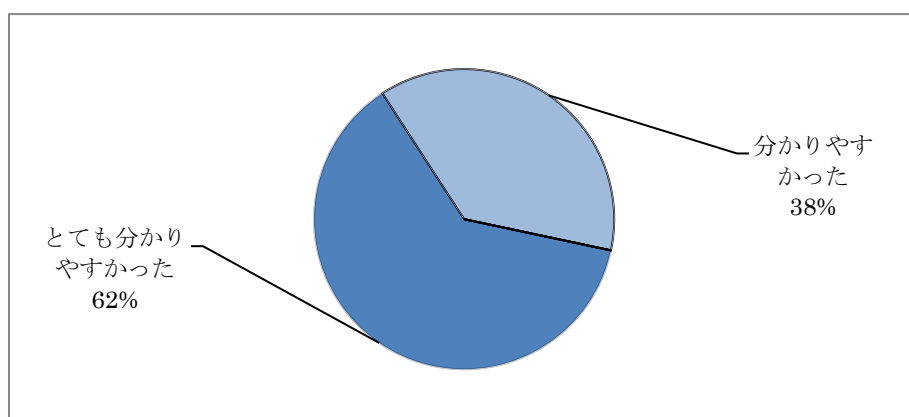


図2 WS参加者からの評価

次に、自由記述のコメントを表7に整理する。表7は、アンケートの自由記述から、参加者がWSについて書いている箇所を抜き出してまとめたものである。

表7 参加者の自由記述コメントのまとめ

コメントの内容のまとめ	コメント例
他の教師との情報共有の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・T07：<u>他の先生方の学習者へのコメントをどのように書いているか</u>についてあまり関心がなかったようだ。 ・T07：<u>皆でだいたい同じ方針であることを知って嬉しい。</u> ・T05：自己評価・振り返りシートについて一度、振り返り、<u>一緒に話し合い、効果的な時間になった。</u>
教師コメントに関する気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・T05：教師は自分が書いているコメントについて振り返ったり、分析したりすること、教師の書いている1つの言葉から学習者は今後、どのような成績で学べるのかは影響されることを改めて感じた。 ・T04：<u>学習者が本気で書けるようになるまで、教師は強制しないで、まず、教師は自分で例になるようなコメント、アドバイスなどを書く必要があるような気がした。ただ、アドバイスするだけではなく、<u>学習者に質問するのも、学習者を考えさせる道に導くのではないか</u>と思った。</u>

整理した結果、大きく2つの内容に分けられた。その内容のまとめを紹介する。そのまとめは1.「他の教師との情報共有の評価」、2.「教師コメントに関する気づき」である。1つ目の「他の教師との情報共有の評価」とは、教師は他の教師たちと情報共有することは効果的だったとする評価である。例えば、T07は「他の先生方の学習者へのコメントをどう書いているか、あまり関心がなかったようだ」、「皆でだいたい同じ方針であることを知って嬉しい」と述べており、他の教師の取り組みにあまり関心がなかったが、WSを通して、自分が他の教師と方針を共有したことをポジティブに捉えている。また、T05は「一緒に話し合い、(中略)効果的な時間になった」と述べており、他の教師の話し合いがとても有意義だったと評価している。

2つ目の「教師コメントに関する気づき」について説明する。WSに参加した教師たちは、他の教師と話し合うことで、自分の取り組みの反省をし、気づきもあったようである。例えば、T05は「教師自身は自分の書いているコメントを振り返ったり、分析したりすることが

重要だということを改めて確認できた」と述べている。「教師自身のコメントの振り返り」は、教師コメント方針の分析の中でも出てきた。また、T04の「学習者が本気で書けるようになるまで（中略）教師はアドバイスだけではなく、学習者に質問するのも、学習者自身に考えさせる道に導くのではないかと思った」と述べている。

以上の自由記述のコメントから見ると、教師たちにとって、WSは自分自身の振り返りシートの取り組みの振り返りや気づきのきっかけになったと考える。また、お互いの情報共有ができた有意義な時間になったのではないかと思われる。

5.2 学習者に関する分析

次に、学習者が振り返りシートをどう捉えているかを、学習者を対象としたインタビューデータをもとに分析をする。分析は、以下の2つの観点で行った。

- (1) PFに積極的に取り組んでいる学習者は、振り返りシートの取り組みのどのような点を評価しているか
- (2) PFに積極的に取り組んでいる学習者は、教師コメントのどのような点を評価しているか

5.2.1 学習者の振り返りシートに対する評価

はじめに、(1)振り返りシートの取り組みのどのような点を評価しているかという観点で分析した結果について述べる。この観点で学習者インタビューのデータを分析した結果、振り返りシートに対する評価に関する発話は、6発話得られた。その後、各発話の意味を考え、カテゴリーを付けて整理をした。分析した結果、学習者が評価している点として、「振り返り」「ファイルの中に整理すること」「自分の考えを教師に伝える／見せること」の3つに整理することができた。以下の表8に分析の結果をまとめる。

表8 観点(1)による分析結果（学習者の振り返りシートに対する評価）

カテゴリー	データ例
1 振り返り (4)	<ul style="list-style-type: none"> • S01: その授業で、私、教師に文法を教えてもらったのに、後で、「何でしたっけ」と迷ってしまう。このようにできなかったことなどを見つめて、フィルターして、可視化し、書く機会を提供しているのがいい。人間だから忘れるからね。後で、やはり思い出してくれるメモリーだ。 • S04: 今日の勉強、私は、どのように結果で過ごしたのか。何が弱くて、何が理解できずに弱かったの。じゃあ、これは、私はよくできないなど、思いが生まれているので、それをまたやり直したりするなど。「よくできました、できました、しました」の☆を塗りつぶすのがとても気に入っている。それで、活動と理解の授業は両方、あるよね、だから、短い期間で振り返って、評価しているのが一番重要な観点である。 • S06: テストの前に(2度目の)自己評価の☆3つ(よくできた)を塗りつぶしているね。(中略)それで、頭の中で考えて、今、これはなんだったか、何を学んだかなどを考えて、じゃあ、じゃあ、このようなものを学習したな、じゃあ、私、思い出している」と思いながら、自己評価の☆を塗りつぶしている。2つの欄(1回目の自己評価、2回目の自己評価)があるのが気に入っている。
2 ファイルの中に整理すること (1)	<ul style="list-style-type: none"> • S02: もちろん良く受けているのもあるし、良くないのもある。「ああ、ここに間違ってしまった」と見られるから、とても整理されていて、1つのファイルの中にあるから、私にとってもいいなと思っている。 • S05: MOJCからの資料を入れて、きれいに整理するようになった。休みの日でも、最初から整理をしている。
3 自分の考えを教師に伝える/見せること (1)	<ul style="list-style-type: none"> • S06: 私の書いているものは教師が読む。私の書いているものから、「私は分かっていたら、分かった、分からなかったら分かった、そんな理由で」など、自分の言いた

	<p>いことを書いて、授業の後に教師に言いたいことを言っている。</p> <p>・S07：自分がどのようなことが知ったかについて理解して、また、こうやって、ただ、頭の中の自分の考えや意見などを書いて、教師に見せているのが気に入っている。何を分かったかについて書くべきだ。何を学んだか、授業の何が面白かった、何が難しかったかについて。そのことについてすべて書いている。気に入っている。他人に自分の感想が言える。自己表現する。分からないことは、これを通して伝えている。言う、見せる。それが気に入った。</p>
--	--

※データ例の（ ）内は筆者の補足である。また、カテゴリーの後ろの（ ）内の数字は発話数を示す。

まず、分析から、学習者は振り返りシートを活用した「振り返り」の行為そのものを評価していることがわかった。例えば、S01は、振り返りシートを活用することで「その授業で、(中略)できなかつたことなどを見つめて、フィルターして、可視化し、書く機会を提供しているのがいい」と述べており、振り返りシートが授業の振り返りの機会を提供してくれることを評価している。また、S06は「2つの欄があるのが気に入っている」と述べている。これは、振り返りシートに2つのチェックの欄が設定されており、毎回の授業後に1度目、中間テストの振り返りの日に2度目の振り返りができること、つまり、繰り返して振り返りができることを評価している。

次に、S02は「とても整理されていて、1つのファイルの中にあるから、私にとってもいいなと思っている」と述べており、学習関連の資料などを1つの「ファイルの中に整理すること」を評価している。これは「整理をする」ことで、学習管理につながっていると解釈できる。また、S07は「頭の中の自分の考えや意見などを書いて、教師に見せているのが気に入っている」「他人に自分の感想が言える。自己表現する。分からないことは、これを通して伝えている。言う、見せる。それが気に入った」と述べており、自分が考えたことを教師に見せることを評価している。見せることとしては、「何を分かったか」「何を学んだか」だけでなく、「授業の何が面白かったか」「何が難しかったか」「そのことすべてについて書いている」と述べている。

日常の授業では、教師と学習者が、学習状況についてゆっくり話し合う時間は十分ではない。そのため、振り返りシートを教師への自己表現の機会にしている学習者もいることが分かった。

5.2.2 学習者の教師コメントに対する評価

次に、(2) PF に積極的に取り組んでいる学習者たちは、教師コメントのどのような点を評価しているか、という観点で分析した結果について述べる。

分析の結果、教師コメントの評価に関する発話は17発話得られた。教師コメントを評価するポイントとして、「教師の励まし」「学習者一人ひとりに合わせたコメント」「学習に関するアドバイス」「教師とのコミュニケーション」の4つのカテゴリーに分けられた。以下の表9に分析の結果をまとめる。

表9 観点(2)による分析結果(学習者の教師コメントに対する評価)

カテゴリー	データ例
1 教師の励まし (6)	<ul style="list-style-type: none"> • S01: (教師に)「<u>頑張ってください</u>」と言われると、<u>すごくやる気が出る</u>。 • S02: <u>愛情を感じる。どの先生が書いているのかな。私に励みになってくれて気持ちいい。人間は少しのことでも励まされる。だから、すごく愛情を感じる。(中略)私にとって、いつも「よくできました、頑張ってください」と褒められているので、やる気が出てきて。</u>
2 学習者一人ひとりに合わせたコメント (5)	<ul style="list-style-type: none"> • S01: <u>教室内で皆に向けて言わなくて、ただ私だけに向けて書いた。(中略)それを身に付けなければならないなどと責任、小さい宿題、刺激になってくれる。ただ私だけのコメントを読んで、私の状況に合ったアドバイスをしてくれると本当に気持ちが良いと感じる。</u> • S04: 教師は30人ぐらいの<u>学習者一人ひとりの我々学習者と関わって、メモをしたり、コメントしているのが振り返りである。例えば、「最近、あなたのテストの評価は低下する傾向である。これからも頑張ってください」と。そして、私「私、本当にそうだ。ちょうど、最近の1週間は仕事のせいで、私は1つのテストは良く受けられなかった。教師はそれに(私のことはすべて)気づき、書いている。先生方は、私のことをすべて、このセンターは、やはり、学習者に時間をかけている。各一人ひとりに向けてやりとりをし、接触している。それがとても満足している。</u> • S05: 全体的に、注意するコメントが役に立つ。「授業中は話しているよ」「成績が悪いですよ」などコメント。それで、それを改善する。<u>教師のコメントから自分の弱いところを見つける、他にはない。</u> • S06: <u>書くということは人からより心をこめている。(中略)、学習者それぞれに書いて、コメントを書き、何がいいか、何がだめかについて書いたりして、話しているのが優しく感じられている。</u>
3 学習に関するアドバイス (4)	<ul style="list-style-type: none"> • S03: 私自身はよく「<u>新しい言葉を覚える必要がある</u>」などのコメントを書く。「<u>そうよ。今後、もっと頑張ってください。次回の授業の新しい言葉を見てきてください</u>」というアドバイスがあった。<u>それはとてもいいと思う。</u>
4 教師とのコミュニケーション (2)	<ul style="list-style-type: none"> • S07: 教師コメントは<u>もっと長くなったような気がした</u>。最初は、「<u>よくできました。今後も、頑張ってください</u>」と書いていたが、今は<u>すごくチャットしているようだ</u>。

表9をもとに、学習者の教師コメントに対する評価について詳しく見ていく。分析結果では、学習者は教師のコメントによる「教師の励まし」を評価していることが分かった。例えば、S01は「(教師に)「頑張ってください」と言われると、すごくやる気が出る」、S02は「愛情を感じる。(中略)私に励みになってくれて気持ちいい。人間は少しのことでも励まされる」と述べている。これは、教師コメントの方針で示された「情動的支援」と一致する。つまり、教師コメントの方針としている「情動的支援」が学習者にとっても「励まし」になったり、「やる気が出る」ことにつながったりしていることが分かった。

次に、「学習者一人ひとりに合わせたコメント」を評価している。例えば、S01は「教室内で皆に向けて言わなくて、ただ私だけに向けて書いた。(中略)、私の状況に合ったアドバイスをしてくれると本当に気持ちが良いと感じる」、S04は「先生方は、(中略)学習者に時間をかけている。各一人ひとりに向けてやりとりをし、接触している。それがとても満足している。」と述べている。

また、学習者は教師コメントの「学習に関するアドバイス」がよいと評価した。例えば、S03は「私自身はよく「新しい言葉を覚える必要がある」などのコメントを書く。「そうよ。今後、もっと頑張ってください。次回の授業の新しい言葉を見てきてください」というアドバイスがあった。それはとてもいいと思う」と述べており、教師から学習方法のアドバイスをもら

えることを評価している。このような教師からの学習方法のアドバイスは、教師コメントの方針で示された「継続して学習するように影響を与える」とも関係しているのではないかと考える。その理由は、教師からのアドバイスを通して、学習者は学習方法のヒントを見つけ、次の学習に活かすことができるからである。

最後に、「教師とのコミュニケーション」を評価している。S07は「教師コメントはもっと長くなったような気がした。最初は、「良くできました。今後も、頑張ってね」と書いていたが、今はすごくチャットしているようだ。」と述べており、振り返りシートが教師とのコミュニケーションに活かせることを評価している。教師の取り組み上の問題点として、コースの初期段階では、学習者についての情報不足では、教師がコメントを書きにくいと挙げられていた。

現状では、MOJCの教師が1人は30人ぐらいの学習者を受け持っており、授業は週に2~3コマを担当している。そして、授業以外にも、他の様々の業務をしている。そのため、授業の内外で学習者一人ひとりと接する時間は限られている。この分析結果によって、振り返りシートの学習者コメントに対する教師コメントは、教師と学習者との「コミュニケーションのツール」としての役割を担っていることが明らかになった。

6. 分析結果のまとめと考察

本章では、データ分析の結果をもとに、研究の目的であるMOJCにおけるPFの現状と課題について考察する。

6.1 研究課題1のまとめ

研究課題1として、MOJCの教師は、学習者の振り返りシートの取り組みをどう捉え、どう関わるべきだと考えているかを明らかにしたいと考えた。この課題を明らかにするために、MOJCのモンゴル人日本語教師を対象としたWSから得られたデータを分析した。

分析の結果、MOJCにおける振り返りシートの問題点として、①教師・学習者双方の振り返りシートにかかる時間不足、②教師・学習者双方のコメントのバリエーション不足、③教師コメントを書くための情報不足、④学習者の振り返りができていない、⑤PFに関する理解不足の5つにまとめられた。

また、MOJCの教師たちが考える学習者の振り返りシートの取り組みを支援する教師コメントの方針は、1「学習者に対する支援」に関する方針と、2「教師自身の取り組み方」に関する方針の大きく2つに分けられた。また、その2つはさらに、1「学習者に対する支援」の内容として、「情動的支援」「内省支援」「学習支援」に、2「教師自身の取り組み方」の内容として「学習者の尊重」「学習者一人ひとりに合わせた対応」「教師自身の振り返り」に分けられた。

青木(2001:194)で「内省の能力は、誰もはじめから持っているわけではない」と指摘し

ており、教師の役割として、内省の力を育てる手伝いをする必要があると述べている。今回の分析結果では、「内省支援」の方針など、教師が学習者の内省を促すことを考慮に入れて、教師コメントを書くように心がけていることが再確認できた。例えば、学習者自身に、自分の言葉で、実際に具体的に、問題を取り上げてもらうような方針で教師コメントを書くように努力していることが把握できた。さらに、学習者が振り返りの「活動に対して、真摯に取り組む習慣を作るように配慮」といった方針から、学習者がより良く内省ができるような環境作りにも力を注いでいることが改めて分かった。

6.2 研究課題2のまとめ

研究課題2として、学習者が振り返りシートの取り組みをどう捉えているかを明らかにしたいと考えた。そのために、特にPFに積極的に取り組んでいる学習者に注目し、彼らに対する振り返りシートに関するインタビューで得られたデータを分析した。

分析の結果、学習者が振り返りシートの取り組みを評価している点として、「振り返り」「ファイルの中に整理すること」「自分の考えを教師に伝える／見せること」の3つに整理することができた。さらに、学習者が教師コメントを評価している点として、「教師の励まし」「学習者一人ひとりに合わせたコメント」「学習に関するアドバイス」「教師とのコミュニケーション」の4つのカテゴリーに分けられた。

今回の分析を通して、学習者にとって、情動的な支援が重要であることが分かった。普段、モンゴルの学校教育の中では、教師から励ましの言葉をもらう機会はそれほど多くない。MOJCの学習者の多くは社会人であるが、教師から励まされたり、褒められたりする環境は、やる気を出したり、気持ち良く学ぶために、必要だと考えられる。

また、振り返りシートは、教師からの支援のツールだけではなく、学習者も自己表現ができるような、学習者と教師のコミュニケーションのツールになっていることが実感できた。

「学習者一人ひとりに合わせたコメント」に関しては、教師コメントの方針リストの分析で、教師が重視している支援の方針だと分かったが、学習者にも、教師コメントの良い点として評価されていることが分かった。しかし、5.1.1で論じた振り返りシートの取り組みの問題点では、「教師コメントを書く時間が足りない」「一人ひとりに合ったコメントを書けない場合がある」と教師の時間不足が指摘されていた。一人ひとりに合ったコメントを書くためには、時間がかかる。授業以外の様々な忙しい業務の中で、一人ひとりに合わせたコメントを書く時間をどう確保するか、またはそれ以外に時間をかけずに学習者の振り返りを支援する方法があるか検討する必要があるだろう。

6.3 MOJCにおけるPFの現状と課題の考察

最後に、研究課題1,2の分析結果をもとに、MOJCにおけるPFの取り組みについて考察をする。分析の結果、振り返りシートが大きく2つの点で教師と学習者に有効に働いていること。

一つ目は、「情動的支援」に関することである。研究課題1では、教師コメントの方針とし

て、学習者を「励ます」「褒める」などの情動的支援を行うという方針が示された。一方、研究課題2では、学習者が教師コメントを評価する点として、教師による「励まし」が挙げられた。このように、振り返りシートの取り組みを通して、学習者は教師からの励ましを受け、学習継続への意欲へとつなげていると考えられる。

二つ目は、「学習者一人ひとりに合わせた対応」に関することである。研究課題1では、「学習者一人ひとりの状況に合わせる」など、学習者一人ひとりに合ったコメントを書くことで、学習者それぞれの学習支援を行うという方針が示唆された。一方、研究課題2では、学習者側は教師コメントを通して、一人ひとりに合ったアドバイスをもらえる点の評価している。このように、振り返りシートの取り組みを通して、教師は学習者一人ひとりの学習状況を把握し、それぞれに合った学習支援ができていると考えられる。つまり、振り返りシートの教師コメントに学習者を尊重し、一人ひとりを大切にして、取り組むことで、授業内外の学習及び自律学習にもつながるのではないかと考える。

それ以外にも研究課題2の分析結果から、振り返りシートが教師とのコミュニケーションや自己表現のツールとして捉えられていることも明らかになった。総じて、MOJCにおけるPFは、教師と学習者をつなぐ役割を果たしてくれているのではないかと解釈できる。

7. おわりに

筆者はこれまで、日本人の教師や日本語教育専門家の指導の下で、学習者のPF及び振り返りシートに取り組んできた。しかし、近年、自分の取り組みの意味は何か、学習者にとって、どのようないいことがあるのか、筆者自身が満足できるような理解に達成せず、学習者の振り返りシートの取り組みへの関わりに自信を持てなかった。また、振り返りシートについて、他の教師や学習者はどう考えているかについての理解が浅かった。今回のWSを通して、MOJCの振り返りシートの取り組みについて、教師間で一定の共通理解が得られたと考える。しかし、今回のWSは限られた時間での話し合いであったため、まだ十分に明らかにならなかったことも多いのではないかと考える。今後もWSのような教師同士の話し合いの機会を持つことで、さらに教師同士の振り返りシートの取り組みへの理解が深まるのではないかと考える。

なお、本研究には課題も多く残った。今回は、積極的な学習者を対象にインタビューをしたが、今後、PFに消極的な態度の学習者の現状も把握する必要がある。そうすることで、振り返りが十分ではない学習者に対する関わりについても考えていけるだろう。

また、今回の研究では、教師と学習者双方の問題として、「時間不足」、「コメントのバリエーション不足の問題」、「PFの利用方法へ理解不足」などが挙げられていたが、それぞれについて、現場で検討していきたい。

注

- ¹ 総合日本語コース1～6はJFSに基づいたコースブック『まるごと日本のことばと文化』(入門Aレベル～中級1B1レベル)を利用している。それぞれのコースは約3か月間で実施している。昼の時間帯で実施するコースは(A)クラスで、夜間コースは(B)クラスと分けている。コース名はMOJC内で総合1～6と呼んでいる。
- ² Can-doとは、言語熟達度を「～ができる」という形式で示した文である。どのような文型や文法を知っているか、単語や漢字をいくつ知っているかという熟達度の捉え方に対して、Can-doは、たとえば、「好きか嫌いかを述べることができる」のように、言語熟達の、ある段階でできる言語活動や持っている言語能力の例を示し、目安とするものである(国際交流基金 2017: 14)。
- ³ 振り返りシートは、コース全体の評価の20%を占めている。標準的なコースでは、学習者はコース実施中に全9枚の振り返りシートを提出する。全部提出できれば、20%分の点数がもらえる。基本的には、コメントの質は評価しないが、明らかに同じコメントを繰り返している場合は、減点をすることもある。

参考文献

- (1) 青木直子(2001)「日本語教師の役割」『日本語教育を学ぶ人のために』世界思想社、193-194.
- (2) 石井容子・熊野七絵(2010)「事例4 関西国際センター ポートフォリオで自律学習を促すー海外で日本語を学ぶ大学生の自律学習支援ー」JFスタンダード開発過程における試行と検証、1-11.<<https://jfstandard.jp/publicdata/ja/render.do#sec07>> 2019年9月3日参照
- (3) 片桐準二(2014)「JF講座受講生のポートフォリオに対する態度変化の過程ー受講生インタビューの分析からー」『日本語教育紀要』第10号、国際交流基金、7-22.
- (4) 国際交流基金(2017)『JF日本語教育スタンダード利用者ガイドブック』【新版】
- (5) 今隆史(2011)「中学校社会科における社会認識の形成を支援する方法ー『内察的な態度』と『振り返り』学習活動」課題研究、東京学芸大学、2011、1-20.<<http://laotao.way-nifty.com/islikewater/files/2011.2.27%20.pdf>>2019年9月5日参照
- (6) 八尾由希子(2014)「ポートフォリオ指導の実践と受講生の変化」『JF日本語教育スタンダード準拠コース事例集 2014ーJF講座における実践ー』国際交流基金、161-180.<<https://www.jpfe.go.jp/j/project/japanese/education/jf/case/2014/pdf/jf2014.pdf>>2019年8月9日参照

- (7) 山内薫 (2017) 「生涯学習の視点に基づく日本語学習ポートフォリオ作成活動ーグローバル社会における日本語学習環境の構築ー」『日本語教育実践研究』立教日本語教育実践学会、第5号、早稲田大学、111-121.
- (8) 横溝紳一郎 (2000) 「ポートフォリオ評価と日本語教育」『日本語教育』107号、105-115.

添付資料1 自己評価・振り返りシート（日本語バージョン）

『まるごと 日本のことばと文化 入門(A1)』自己評価・振り返りシート

トピック1: にほんご

番号: _____ 名前: _____

第1課

①学習目標の記述

☆☆☆しました☆☆☆できました☆☆☆よくできました

テキスト	Can-do	自己評価1回目 年月日	自己評価2回目 年月日	②自己評価の基準
かつどう	1. 日本語であいさつができる 2. ひらがな・カタカナ・漢字の違いが分かる	☆☆☆ ☆☆☆	☆☆☆ ☆☆☆	③自己評価欄
りかい	1. ひらがなが読める 2. ひらがなが書ける	☆☆☆ ☆☆☆	☆☆☆ ☆☆☆	

❖ 今日の授業を振り返りましょう。「～についてもっと知りたい」「～が分かった」「～がおもしろかった」

「～が難しかった」「～に気がついた」「～と思った」を使ってコメントを書きましょう。

<かつどう> _____

<りかい> _____

④学習者コメント

第2課

①学習目標の記述

☆☆☆しました☆☆☆できました☆☆☆よくできました

テキスト	Can-do	自己評価① 年月日	自己評価② 年月日	②自己評価の基準
かつどう	1. 教室の言葉が話せる/理解できる 2. 自分の名前と国がカタカナで書ける	☆☆☆ ☆☆☆	☆☆☆ ☆☆☆	③自己評価欄
りかい	1. カタカナが読める 2. カタカナで身近な物(テレビ、テーブル等)の名前が書ける	☆☆☆ ☆☆☆	☆☆☆ ☆☆☆	

❖ 今日の授業を振り返りましょう。「～についてもっと知りたい」「～が分かった」「～がおもしろかった」

「～が難しかった」「～に気がついた」「～と思った」を使ってコメントを書きましょう。

<かつどう> _____

<りかい> _____

④学習者コメント

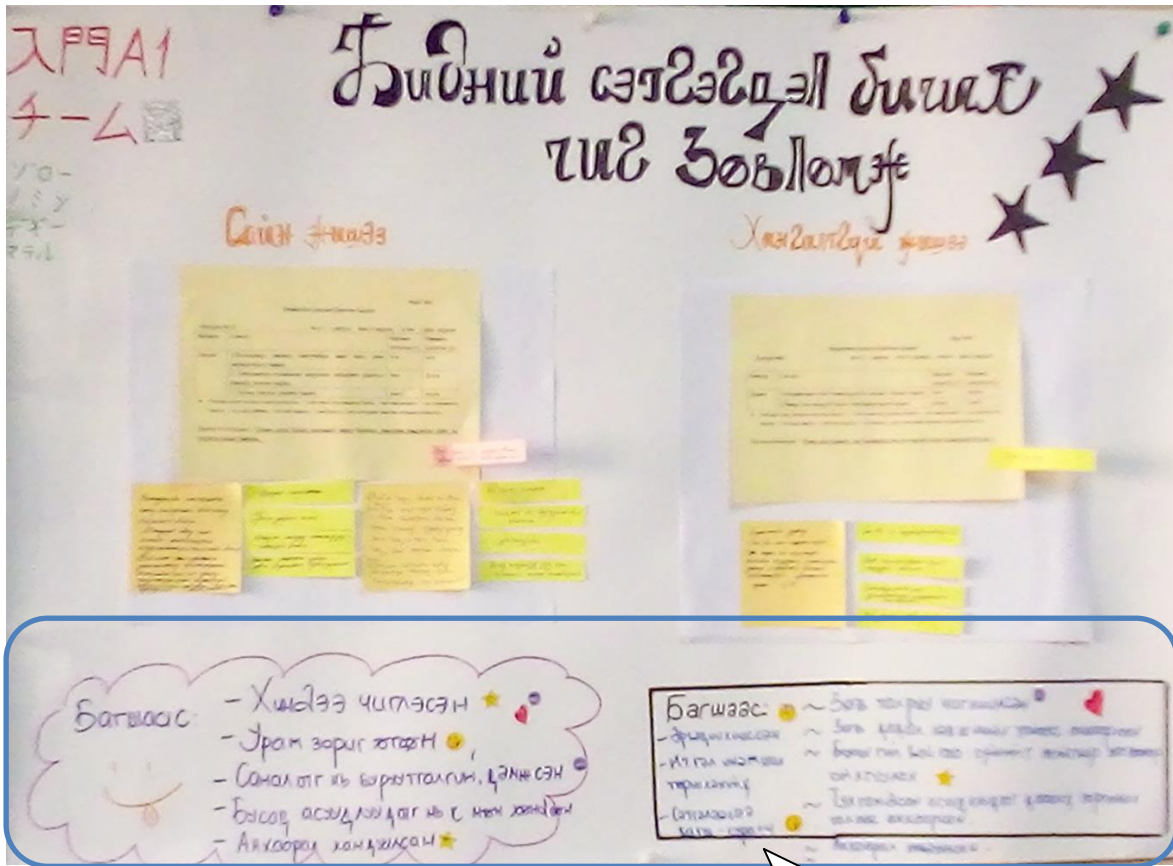
教師のコメント: _____

⑤教師コメント

添付資料2 学習者に関するインタビューの質問

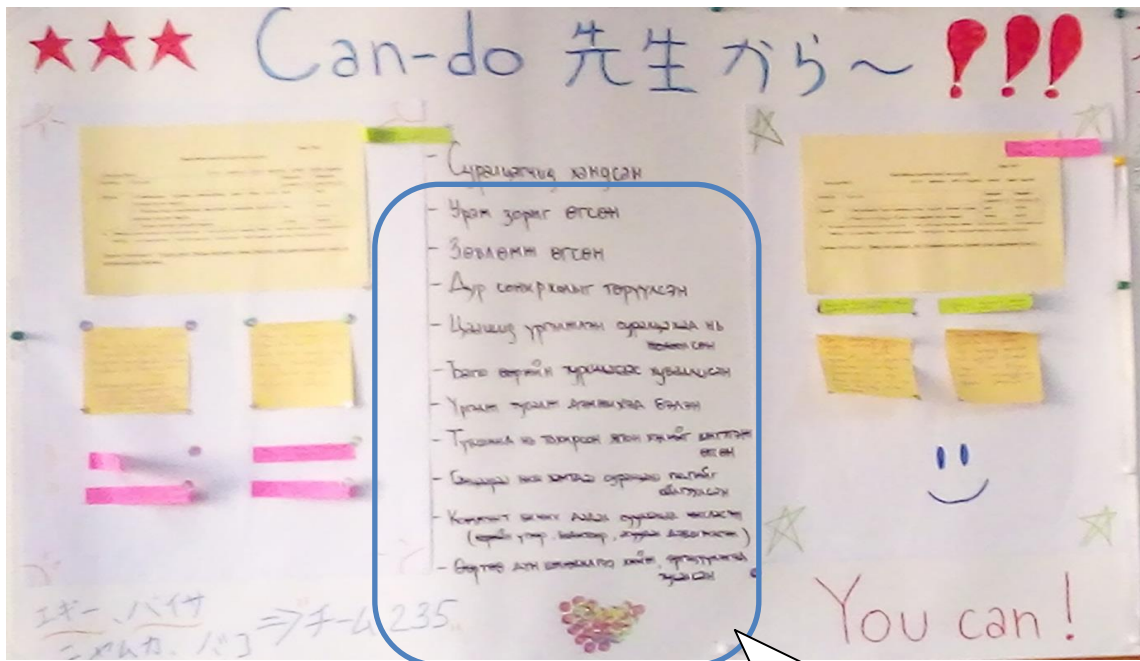
1	インタビューの目的	①振り返りシートに対する捉え方について明らかにする。 ②振り返りのコメントの記述はコース前半と比べて後半のほうに何か変化があるか、教師のコメントの影響があったかを明らかにする。
2	協力者	4名（総合1AかBクラスから、学習者の様子によって）
3	想定時間	1人30～60分×4名＝160分
4	インタビュー調査の趣旨説明、プライバシーの保護について説明	紹介（インタビュー担当者）、調査協力への謝意を表明 趣旨説明（研究テーマ、目的、プライバシーの保護、録音の許可）
質問内容		
アイスブレイク		
① ポートフォリオ関連質問		
1	日本センターで、PF作成していますね。Aさんはこれ以前に、他の経験がありますか。	
2	PFをやってどうですか。	
3	どんなところが楽しい/大変ですか。	
②自己評価・振り返りシート関連質問		
4	自己評価・振り返りシートというものがありますね。それについてどう思いますか。他のところでやった経験がありますか。	
5	自己評価・振り返りを毎回の授業の終わりに学習を振り返ってコメントを書いていますか。あなたにとって、何か役に立っていますか、どんなところですか。	
6	大変なことがありますか。どんなところが大変ですか。	
7	最初のころはどうでしたか。 (コメントの書き方や自己評価・振り返りシートを書く時の気持ちに何かが変わったことがありますか)	
8	自己評価・振り返りシートやそのコメントを続けてやっていることをどう考えていますか。	
9	先生のコメントは読んでいますか。 (どうですか。役に立っていますか、どう立っていますか。どんなコメントが役に立っていますか)	
10	最近、先生の変化が見られますか。	
11	先生のコメントに限らず、ポートフォリオ・自己評価振り返りシートについて、何か希望がありますか。(例えば、ここを変えてほしい、こんなことを教えてほしい、先生からこんなコメントがほしい)	
12	最後に、このシートに対して、学習者のコメントや教師のコメント、振り返りシート全体について、なんでもいいので、意見があれば、どうぞ言ってください。	

添付資料 3-1 「A」チームのポスター（実物）



教師コメントの方針

添付資料 3-2 「B」チームのポスター（実物）



教師コメントの方針

添付資料 3-3 「A」チームの教師コメントの方針の日本語訳

- ・褒める
- ・学習者の意見はだめだと言わずに、励ます
- ・他の問題について触れる
- ・学習者のすべての状況に気を配る
- ・振り返る
- ・信頼性を生み出す
- ・振り返りシートのコメントは心をこめて書く
- ・正しい方向に導く
- ・活動に対して、真摯に取り組む習慣を作るように配慮する
- ・だめなことを優しく、正しく理解させる
- ・直面している問題を挙げてもらえるように配慮する
- ・学習者一人ひとりの状況に気を配る

添付資料 3-4 「B」チームの教師コメントの方針の日本語訳

- ・学習者一人ひとりの状況に合わせる
- ・褒める、励ます
- ・アドバイスをする
- ・学習意欲を生み出す
- ・継続して学習するように影響を与える
- ・いつも気軽に助けられると伝える
- ・レベルに適切な日本語を入れる
- ・「一人じゃない、いつも一緒だよ」と伝える
- ・教師は自分の経験から共有する
- ・コメントを書く習慣ができるようにする
- ・自分の言葉で、実際に具体的に、問題を取り上げる

添付資料4 WSに関するアンケート

1. 今回のワークショップは分かりやすかったですか。

- | | |
|------------------|-------------|
| a. とても分かりやすかった | b. 分かりやすかった |
| c. あまり分かりやすくなかった | d. 分かりにくかった |

2. 今回のワークショップを通して、気づいたこと、考えたこと、分からなかったことなどを書いてください。

3. その他、感想などを書いてください。